

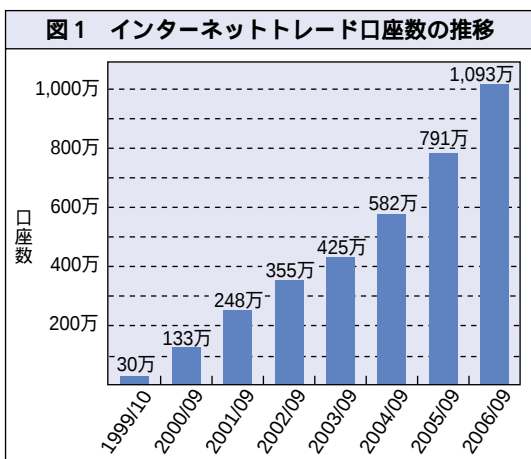
ASP方式のインターネットトレードシステム 「TRADESTAR」

激しい手数料引き下げ競争のなかにある証券業界では、最後は高信頼・高機能のシステムをいかに低コストかつタイムリーに整備するかが競争のカギになると思われる。本稿では、このニーズに応えるべく野村総合研究所（以下、NRI）が2007年春にサービスを開始するインターネットトレードシステム「TRADESTAR」（トレードスター）について紹介する。

再燃する証券投資ブーム

書店の店頭で“株取引指南”をうたった書籍がずいぶん並ぶようになった。バブル期以来の株取引ブームの再来である。ゼロ金利解除にもかかわらず、個人投資家の「貯蓄から投資」という流れは加速を続けている。

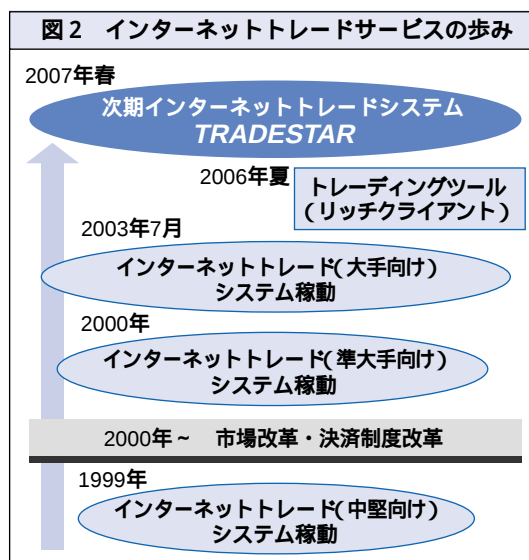
このブームを支えているのがインターネットトレードである。日本証券業協会が半年ごとに発表している「インターネット取引に関する調査」（2006年11月17日発表）によると、2006年9月末時点で、インターネットトレードの口座数は約1,093万（図1参照）。株式委託取引の売買代金に占める割合は27.7%となっている。また、2006年4月から9月までの



6カ月間のインターネットを利用した現金取引と信用取引の売買代金は約132兆4千億円である。なお、個人株式委託売買代金に占めるインターネットトレード専業大手5社のシェアは2006年9月で約67%である（<http://blog2.netshoken.com/2006/10/17/0000.html>）。

激戦のインターネットトレード証券業界

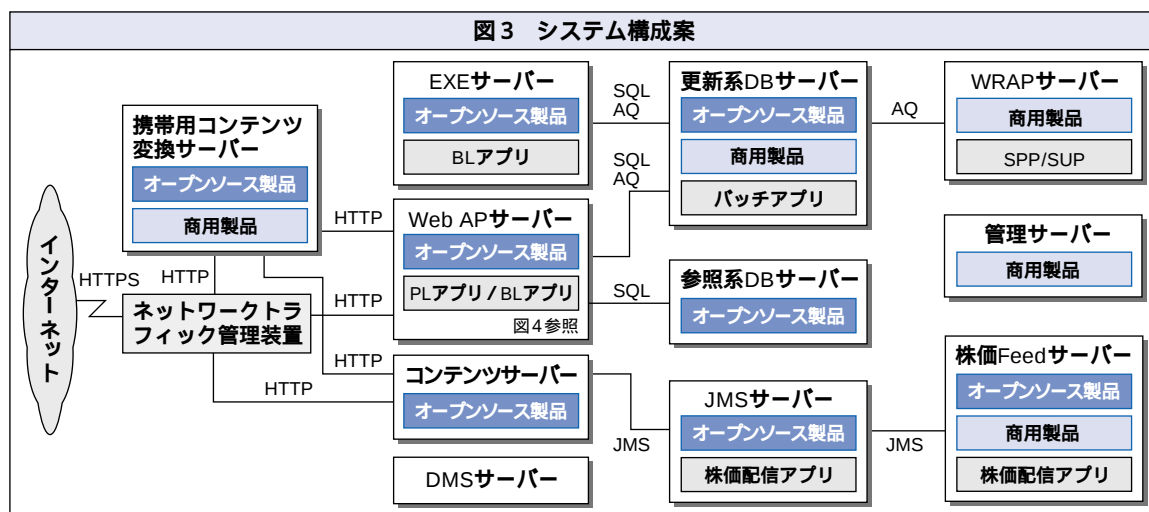
2006年5月に野村ホールディングス社傘下のインターネットトレード専業証券会社、ジョインベスト証券が開業したのに合わせ、インターネットトレード証券各社は手数料の値下げに動いた。従来から、インターネット



野村総合研究所
証券システムサービス事業本部
企画・業務管理室
上席
堀田耕治（ほりたこうじ）
専門は新規事業開発、マーケティング



野村総合研究所
証券システムサービス事業本部
インターネットトレードシステム開発部
グループマネージャー
清水康次（しみずこうじ）
専門はインターネットトレードシステムの設計・開発、プロジェクトマネジメント

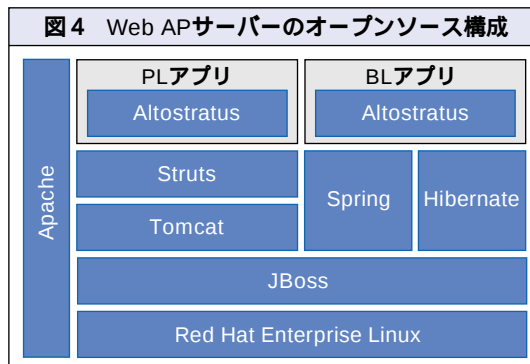


リード証券各社は対面販売の証券会社に比べて割安の手数料を売り物としていたが、ここにきて値下げ競争が一段と激化した格好である。今後、この競争についていけない証券会社の撤退や統廃合も予想される。

インターネットが販売チャネルとして無視できない存在になったいま、インターネットトレードにはコストパフォーマンスのほか、とくに信頼性の高さが求められるようになっている。金融庁はインターネットトレードシステムの信頼性に非常に高い注意を払っており、採用するシステムの信頼性が、免許や新サービス開始の条件にもなっている。当然のことながら、インターネットトレードシステムを提供するベンダーに対する証券会社の要求も厳しさを増している。

インターネットトレードソリューション

NRIでは、証券会社のインターネットトレ



ードへの参入を容易にするため、注文・情報参照などのフロント業務システムをASP方式で利用できる「TRADESTAR」の提供を2007年春から開始する（図2参照）。TRADESTARの特徴は以下のとおりである。

オープンソース基盤の採用

従来、NRIではこれらの業務システムにはUNIX、Oracleなどの商用ソフトウェアを採用してきたが、TRADESTARでは、Linuxなどのオープンソース製品で基盤を統一し、コスト削減を実現した（図3、図4参照）。数十



社規模の共同利用というスケラビリティと、きわめて高い信頼性が要求される証券フロントアプリケーションにオープンソースを採用したのは業界初の試みである。また、リレーショナルデータベースのレコードをオブジェクト指向で直感的に扱えるようにするO/Rマッピングツール「Hibernate」を本格的に導入したことも特筆すべき点である。

参入を容易にするASP方式

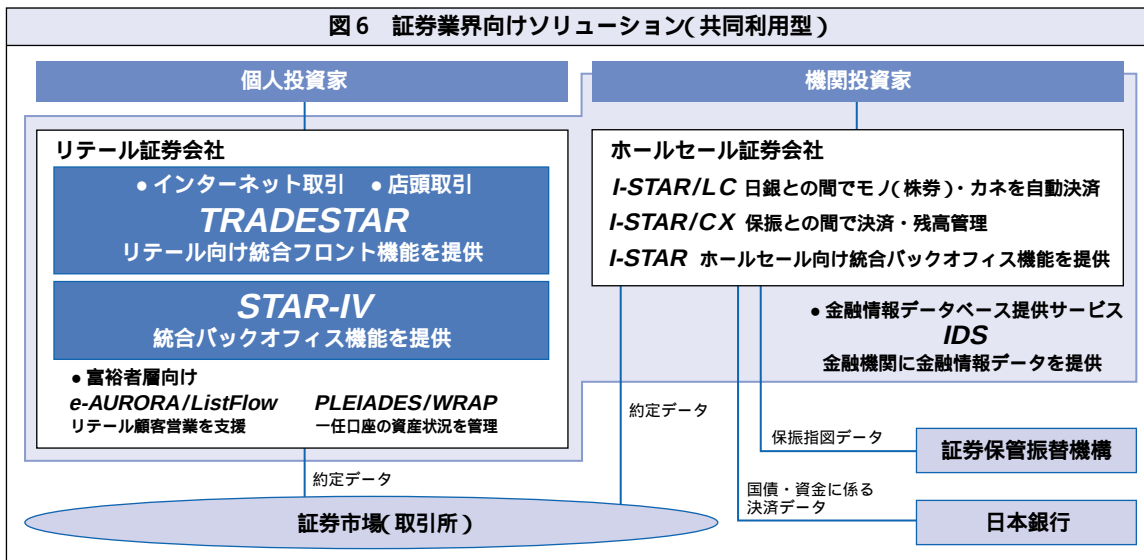
インターネットトレードシステムなどのフロントシステムは、従来は個別のシステム開発で対応してきたのに対して、TRADESTARはバックオフィスシステムのSTAR-と同様、利用量に応じて課金するASP方式としている。また、従来のASP方式のシステムとは異なり、ユーザー各社が画面インタフェースなどをカスタマイズできるようにしたり、高度なグラフィック機能を提供するリッチクライアントソフトとの統合利用を可能にしたりしている。

証券会社は、約定件数や口座数など、利用する規模に応じて利用料金を支払えばよいので、従来に比べてインターネットトレードへの参入が容易になるというメリットがある。

TRADESTARは、インターネットトレード専業者にとっては拡張性・品質の高いシステムとして、また兼業者にとってはインターネットトレードチャネル戦略見直しに使えるソリューションとして、さらに新規参入者にとっては低コストかつ高品質のシステムとして、そのニーズに応えるものとなる。

マルチユーザー化の工夫

実際にインターネットトレードを行う画面は各社の顔とも言えるので、そのデザインには各社固有のニーズがある。そこで画面のレイアウト設計に自由度をもたせるため、レイヤーごとにパラメーターを設定することで、コーディング量を減らして画面定義を行えるように工夫した(図5参照)。これにより、画



面設計にかかる工数・期間を大幅に短縮することに成功した。

日中更新バッチシステム

TRADESTARはバッチシステムにも工夫をこらしている。約定件数が増大し、夜間バッチ処理が朝までに終了しなかった場合には、口座単位に翌日の日中に同期(コミット)を行う機能を盛り込んでいる。従来は、夜間バッチ処理が終了しなかった場合、全顧客データが前日現在の買い付け余力の状態でオンライン処理を立ち上げるしかなかったが、これにより、顧客の買い付け余力を適正に当日オンライン処理に反映することができるようになった(特許出願中)。

将来を見据えたASP利用の利点

株取引ブームの過熱状態はライブドアショックを契機に峠を越したものの、インターネ

ットレードは個人投資家を中心として今後も着実にその割合を高めていくものと思われる。しかし、手数料競争がますます厳しさを増すなかで、インターネットトレードへの参入を目指して自社で十数億円とも言われる多額の投資を実施しても、参入を果たした頃にはまた一段と手数料が下がり採算が合わなくなるといったおそれもある。その意味で、ASPサービスは参入のリスクを軽減するものと言える。

手数料競争が一段落したとき、その後に来るのはシステム機能の勝負である。オープンソースによるコストパフォーマンスとスケラビリティに加え、タイムリーな新機能をオンデマンドで活用できるASPサービスの特徴が、そのとき生きてくるはずである(NRIでは図6に示すようにASPサービスを証券業界に提供している)。